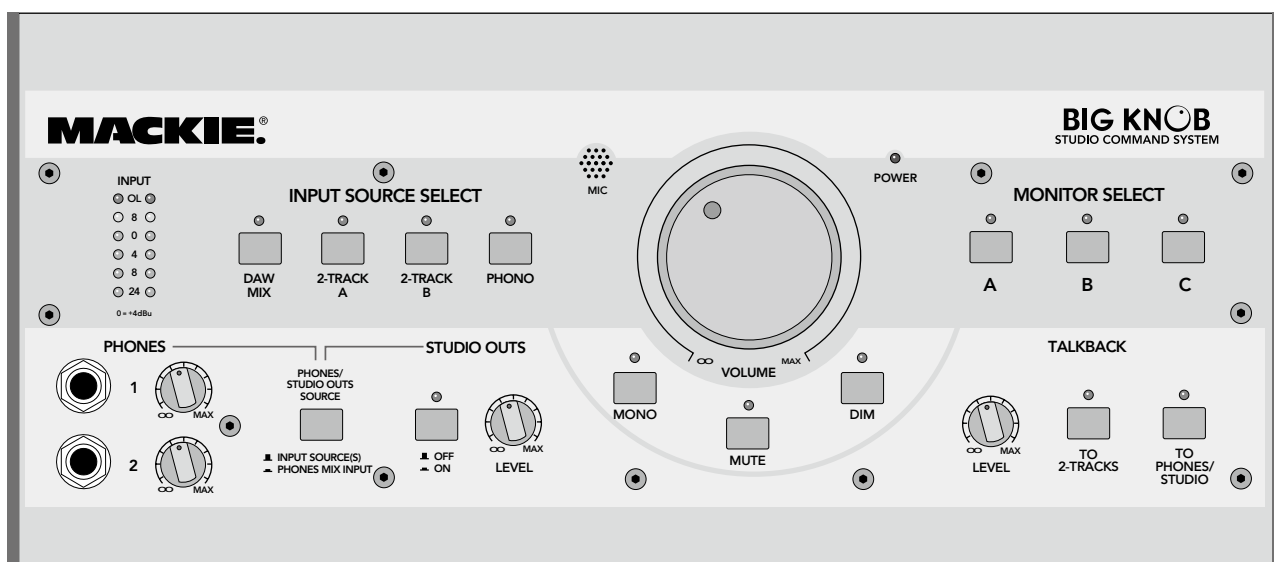


MACKIE®

Big Knob

Studio Command System

日本語
オーナーズマニュアル



安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

 	「必ず守ってください」という強制を表しています。	 	「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
---	--------------------------	---	----------------------------

 **警告** この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



本書をすべて読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書をすべてよく読み、本書の内容にしたがってください。



電源コードは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。



確実に接地すること（アース）

感電を防止するため、確実にアースに接続してください。



水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。この製品を直接水がかかる場所、または湿度の高い場所に置かないでください。感電や火災、故障の原因になります。



本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因になります。



大音量で使用しないこと

この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。



異臭や異常を感じたらただちに電源コードを抜き、修理を依頼すること

正常に機能しない、異臭や異音がするなどの場合は、修理をご依頼ください。



電源コードや接続ケーブルは安全に配置すること

ケーブルをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、ケーブルが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っかけるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。



移動するときはケーブルをすべて抜くこと

電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを傷めたり、周囲の方が転倒する原因になります。



電源コードや電源プラグに異常がある場合は使用を中止し、修理を依頼すること

電源コードやプラグの摩耗、接触不良等の場合は本体を使用せず、修理をご依頼ください。



長時間にわたってヘッドホンで大きな音量を聴かないこと

一時的または恒常的な難聴になる場合があります。



長時間使用しないときや落雷の危険があるときは電源コードを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



警告

この記号は取扱を誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



禁止

本体内部に液体や物を入れないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。



禁止

製品を分解したり改造しないこと

火災や感電、けが、故障の原因になります。本体の内部にはお客様が操作する部分はありません。



禁止

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと

ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



禁止

本体の換気用開口部をふさがないこと

本体内部の温度上昇を防ぐため、この製品の表面には換気用開口部があります。この開口部をふさぐと適切に換気ができず、内部の温度が上昇して故障や火災、誤作動の原因になる場合があります。



注意

この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



禁止

高温になる場所に設置しないこと

直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にもうすぐなど裸火を置かないでください。



禁止

本体の上に乗ったり重い物を載せないこと

製品の故障の原因になります。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方がけがをする原因になる場合があります。

修理

日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。

1. 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容をチェックして下さい。
2. テクニカルサポートに電話でまたは、support_mackie@otk.co.jp にメールで「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX してください。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付票を FAX で返送いたします。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
3. オーナーズマニュアルと電源コードは同梱しないでください。修理には必要がありません。
4. 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
5. 必ず、RA 番号が記載された修理受付票のコピーを同梱してください。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載してください。RA 番号のない修理品は受付することができません。
6. 保証内修理を行う場合には、販売店印とご購入日が明記された保証書が必要です。くわしくは、次項の保証規定をご参照ください。

保証

本機の保証はご購入後 1 年間となっております。

正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、あらかじめご了承ください。

- お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- 正常な状態での使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外で使用中の故障、損傷

技術的なご質問・修理窓口

サポートセンター

〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1

(株)サヤマトラフィック 敷地内

☎ 04-2944-3811

FAX 04-2944-3812

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業時間
休業日

月曜日～金曜日 9:00 ～ 17:30
土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

営業窓口

東京

東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

FAX 03-3639-7801

大阪

大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

☎ 06-6152-7751

FAX 06-6152-7752

名古屋

名古屋市東区泉 1-23-30

☎ 052-950-3324

FAX 052-950-3325

福岡

福岡市南区大橋 4-16-18-201

☎ 092-554-6066

FAX 092-554-6064

営業時間
休業日

月曜日～金曜日 9:00 ～ 17:30
土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏期

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

INDEX

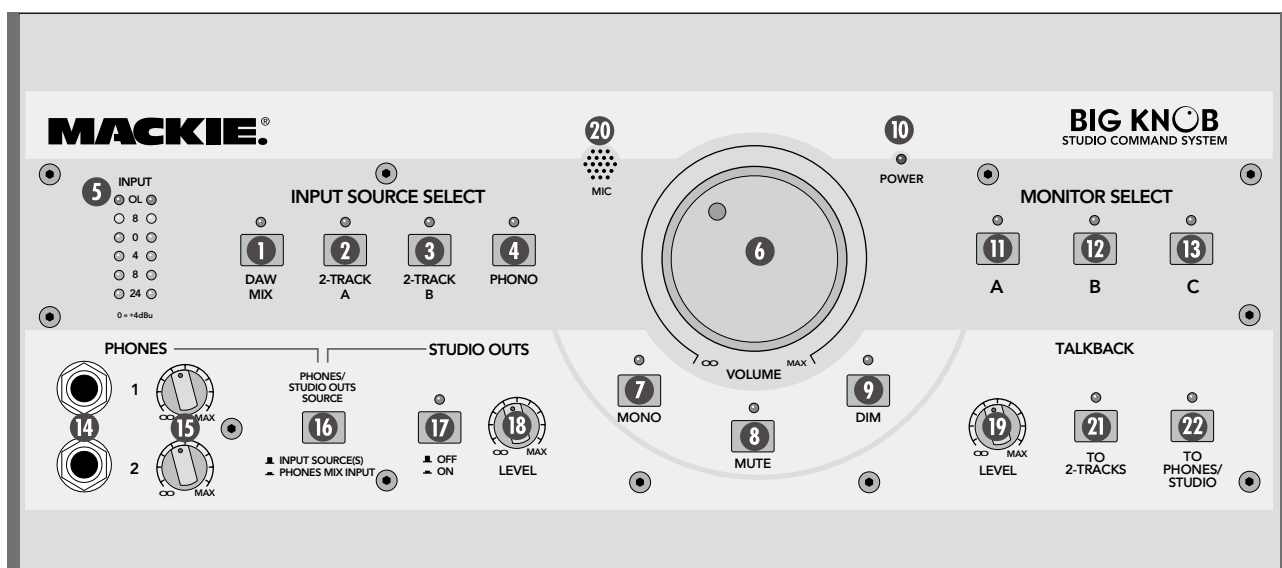
- このページを読んでください!1
 - レベル設定の手順.....1
 - 賢者のひとこと.....1
 - 即興ミックス.....1
- ご不明な点は2
- はじめに.....2
 - このマニュアルの使い方.....2
- 接続例.....4
- ラックマウントモードに変更する.....6
- パッチベイ.....7
 - E-Z インターフェース.....7
 - 1 MIC IN ジャック.....7
 - ファンタム電源.....7
 - 2 LINE IN ジャック.....8
 - 3 GAIN ノブ.....8
 - 4 チャンネル INSERT ジャック.....8
 - 5 DIRECT OUT ジャック.....8
 - スプリットモニタリング.....8
 - 6 AUX SEND ジャック.....9
 - エフェクト: シリアル? パラレル?.....9
 - 7 STEREO RETURNS ジャック.....10
 - 8 SUB OUT ジャック.....10
 - ダブルバス.....10
 - 9 C-R OUT ジャック.....10
 - 10 ヘッドフォンジャック (フロントパネル).....10
 - 11 TAPE OUTPUT ジャック.....10
 - 12 TAPE INPUT ジャック.....11
 - 13 MAIN INSERT ジャック.....11
 - 14 MAIN 出力ジャック.....11
 - 15 MONO 出力ジャック.....11
 - 16 MONO レベルノブ.....11
 - 17 電源電圧セレクター.....11
 - 18 電源インレット.....11
 - 19 ヒューズボックス.....12
 - 20 POWER スイッチ.....12
 - 21 PWR LED.....12
 - 22 PHANTOM スイッチ.....12
 - 23 48V LED.....12
 - 24 ランプコネクター.....12
- チャンネルセクション.....13
 - 「U」 ライク・ユニティゲイン.....13
 - 25 チャンネルフェーダー.....13
 - フェーダーをきれいにする.....13
 - 26 アサインスイッチ.....13
 - 27 SOLO スイッチ.....14
 - 28 -20 LED.....14
 - 29 OL LED.....14
 - 30 MUTE スイッチ.....14
 - 31 PAN ノブ.....14
 - ステレオソース.....15
 - コンスタントラウドネス.....15
 - 32 3 バンド MID スイープ EQ.....15
 - 33 LOW CUT スイッチ.....15
 - 34 AUX 1-4 ノブ.....16
 - 35 PRE スイッチ.....16
 - 36 5/6 SHIFT スイッチ.....16
 - 出力セクション.....17
 - 37 MAIN MIX フェーダー.....17
 - 38 サブグループフェーダー.....17
 - 39 ASSIGN TO MAIN MIX スイッチ.....17
 - 40 TAPE IN レベルノブ.....18
 - 41 TAPE TO MAIN MIX スイッチ.....18
 - 42 CONTROL ROOM SOURCE セレクター.....18
 - 43 CTL ROOM/PHONES レベルノブ.....18
 - 44 MODE (AFL/PFL) スイッチ.....19
 - 45 LEVEL SET LED.....19
 - 46 SOLO LEVEL ノブ.....19
 - 47 RUDE SOLO LED.....19
 - 48 メーター.....19
 - メーター vs 現実.....20
 - AUX について.....20
 - 49 AUX MASTER ノブ.....20
 - 50 AUX SEND SOLO スイッチ.....21
 - 51 STEREO RETURNS レベルノブ.....21
 - 52 TO AUX 1、2 レベルノブ.....21
 - 53 MAIN MIX TO SUB スイッチ.....21
 - 54 1-2/3-4 スイッチ.....21
 - 55 C-R/PHNS ONLY スイッチ.....21
 - 56 RETURNS SOLO.....22
- 付録 A サービスに関する情報.....23
 - チャンネルがおかしい.....23
 - 出力がおかしい.....23
 - ノイズ.....23
 - 電源が入らない.....23
- 付録 B: コネクター.....24
 - XLR コネクター.....24
 - 1/4 インチ TRS フォーンプラグとジャック.....24
 - 1/4 インチ TS フォーンプラグとジャック.....24
 - スイッチタイプの 1/4 インチフォーンジャック.....24
 - RCA プラグとジャック.....25
 - ケーブルをアンバランスにする.....25
 - Mackie のスペシャル接続.....25
 - TRS センド / インサートジャックの受信.....25
 - インサートジャックのセンドだけを使う.....25
 - Mackie のステレオ入力とリターン.....26
 - Y 型コネクター.....26
- 付録 C: 技術情報.....27
 - 仕様.....27
 - 寸法.....28
 - ブロックダイアグラム.....29
 - トラックシート.....30

はじめに

DAW ベースのスタジオのシグナルルーティングやモニタリングソリューションとして **Mackie Big Knob** をお選びいただき、ありがとうございます。Big Knob はコントロールルームのマトリクスと、高価なミキサーの基本機能を提供しながら、一方で DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) 環境の必要条件を満たすよう作られています。4 つまでの独立したステレオ入力ソース選択、3 種類のスピーカーを比較試聴するためのモニタリングといった機能を持ち、別に演奏者用のヘッドフォンミックスやスタジオ出力を提供し、録音用やヘッドフォンキューに使えるトークバックを内蔵しています。言い替えれば、この製品にはミキサーに必要なすべてのものがあり、不要なものはありません。

もう一つ、Mackie に期待される重要な機能は純粋な音質ですが、Big Knob も例外ではありません。スタジオクオリティのギアで、Big Knob を通過することで音声信号が劣化することのないように作られているのです。お手元の高価な DAW と「本当に」高価なスタジオモニターの間に、こいつを無条件に接続してやってください。Big Knob はテストに合格するでしょう！

Big Knob は拡張を続ける Mackie のコンピューターレコーディング製品ファミリーの一つです。Mackie のウェブサイト (www.mackie.com) でオーディオやレコーディングのソリューションになるべく提供している製品をごらんください。またはお近くの Mackie 販売店でカタログをごらんください。



はじめてみよう

Big Knob をセットアップしてレベルを正しく調整するために下記の手順がお役に立つでしょう。接続して調整したら「機能」セクションで入力、出力、スイッチ、コントロールノブそれぞれのくわしい情報を参照してください。



Big Knob の入力と出力のほとんどには、トリムや -10dB と +4dB という表示のあるスイッチが付いています。現実にはオーディオ業界にある 2 つの標準的な動作レベル、民生機の -10dBv と業務機の +4dBu から来ているものです。RCA コネクタが付いた民生機の多くは -10dBv で、1/4 インチフォーンジャックや XLR コネクタが付いた業務機の多くは +4dBu レベルで動作します。ご想像の通り +4dBu は -10dBv より高い (音が大きい) ので、Big Knob の入力と出力のレベルを接続した機器に合わせることが重要です。Big Knob の入力を -10dB に設定するとよりレベルの小さい信号を受けることができ、+4dB の場合よりゲインを提供します。Big Knob の出力を -10dB に設定すると、+4dB の場合より低いレベルの信号を送り出します。

初期設定

- 1 リアパネルの POWER スイッチ [55] を入れます。
- 2 フロントパネルの大きな VOLUME ノブ [6] とすべてのレベルコントロールを下げます (反時計回りに回し切ります)。
- 3 (フロントパネルとリアパネルの) スイッチをすべて突き出した状態にします。
- 4 リアパネルのトリムノブをすべて下げてください (反時計回りに回し切ります)。

接続

- 1 本体に付属の着脱式電源コードを、Big Knob リアパネルの AC 電源インレット [54] に差し込みます。この製品は 100VAC 専用です。適合しない電圧の電源に接続しないでください。

モニターするには

- 2 DAW オーディオインターフェースの音声出力 (ステレオミックス) を、Big Knob リアパネルにある 2 つの DAW MIX 入力ジャック [29] に接続します。

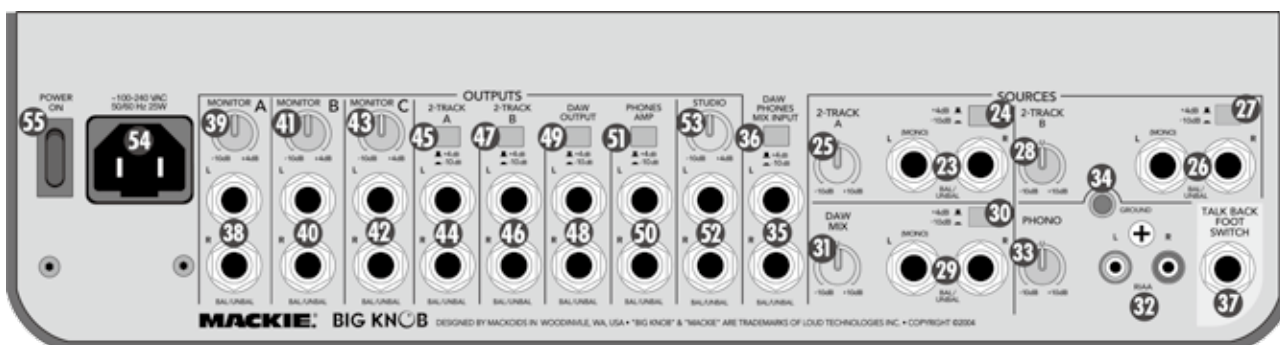
- 3 アクティブスタジオモニター (またはパッシブのスタジオモニターを駆動するアンプの入力) を、リアパネルの **MONITOR A** 出力ジャック [38] に接続してください。モニタースピーカーはミキシングポジションに置くことになるでしょう。アクティブモニター (またはアンプ) の入力レベルが **-10dB** と **+4dB** どちらであるかわかっている場合は、**MONITOR A** 出力ジャックの上にあるトリムノブ [39] を適切な位置に設定します。わからない場合はとりあえず **-10dB** にします。**MONITOR B** 出力ジャック [40] や **MONITOR C** 出力ジャック [42] に他のスピーカーを接続できるので、ミックスを異なる種類のスピーカーで聴くことができます。
- 4 レコーディング用に別のスタジオがある場合、**STUDIO** 出力ジャック [52] にアクティブスタジオモニター (またはパッシブのスタジオモニターを駆動するアンプの入力) を接続してください。このスピーカーは演奏者のためにスタジオに置くことになるでしょう。**STUDIO** 出力ジャックの上にあるトリムノブ [53] を適切な位置にします。わからない場合は **-10dB** にします。
- 5 レコーディング中に使うヘッドフォン分配アンプがある場合は、ヘッドフォンアンプの入力に **PHONES AMP** 出力ジャック [50] を接続してください。**PHONES AMP** 出力ジャックの上にあるスイッチ [51] を適切な位置にしますが、わからない場合は **-10dB** (押し込んだ状態) にします。

レコーディングするには

- 6 **2-TRACK A** 出力ジャック [44] をレコーダーのラインレベル入力に接続します。これで **DAW** からそのレコーダーに録音できるようになります。**2-TRACK A** 出力ジャックの上にあるレベルスイッチ [45] を適切な位置にしますが、わからない場合は **-10dB** (押し込んだ状態) にします。
- 7 レコーダーのラインレベル出力を **2-TRACK A** 入力ジャック [23] に接続してください。
- 8 **Big Knob** リアパネルの **DAW OUTPUT** ジャック [48] を、**DAW** オーディオインターフェースのステレオ入力に接続してください。これで 2トラックレコーダーからの戻りを **DAW** に録音することができます。**DAW OUTPUT** ジャックの上にあるスイッチ [49] を適切な位置にしますが、わからない場合は **-10dB** (押し込んだ状態) にします。

レベルの設定

- 1 すべてを **OFF** にして、最初に **Big Knob** の **POWER** スイッチ [55] を入れます。
- 2 他のパワーアンプ、アクティブスピーカー、ヘッドフォンアンプの電源を入れます。
- 3 **DAW** の再生を開始し、録音済みトラック (あるいはデモトラック) を再生します。その音声を **Big Knob** に接続したモニタースピーカーで聴いてみましょう。
- 4 フロントパネルの **INPUT SOURCE SELECT** セクションにある **DAW MIX** スイッチ [1] を押してください。そのボタンの上にある **LED** が点灯します。
- 5 フロントパネルの **MONITOR SELECT** セクションにある **MONITOR SELECT A** スイッチ [11] を押してください。そのボタンの上にある **LED** が点灯します。
- 6 **DAW** オーディオインターフェース出力が **-10dB** (民生機レベル) と **+4dB** (業務機レベル) のどちらかわかっている場合、**DAW MIX** 入力ジャック用の **DAW MIX** レベルスイッチ [30] を正しい位置にしてください。わからない場合は突き出した状態 (**+4dB** の位置) にします。必要であれば後で変更することができます。
- 7 **DAW MIX** トリムノブ [31] を、フロントパネルの **INPUT** メーター [5] が点灯して機嫌良く飛び跳ねるまで少しずつ上げてください。メーターの「0」**LED** がいつも点灯するようにします。「+8」**LED** が時折点滅する程度、「0L」**LED** はまったく点滅しないように調整してください。
- 8 メーターの「0」と「+5」**LED** が点灯するほど信号レベルを上げられないときは、トリムノブを完全に下げてから **DAW MIX** レベルスイッチ [30] を押し込み、それからゆっくりトリムノブを上げてください。これで信号は「0」と「+5」を点灯させるのに十分な強度を持っているはずです。
- 9 **VOLUME** ノブ [6] をゆっくり上げます。**DAW** が再生している音声がスタジオモニターから聞こえ始めるはずです。**VOLUME** ノブで心地よいレベルに調整してください。**VOLUME** ノブをいっぱいまで上げなければモニターの声が聞こえない場合は、**VOLUME** ノブを完全に下げ、**MONITOR A** 出力ジャックの上にあるトリムノブ [39] の位置を調べてください。反時計回りになっている場合は、ノブを **+4dB** の位置にして再び **VOLUME** ノブを上げてください。今度はより早く音量が上がるはずです。
- 10 モニターを **STUDIO** 出力ジャック [52] に接続している



場合は、フロントパネルの PHONES/STUDIO SOURCE スイッチ [16] が突き出した状態、さらに STUDIO OUT ON/OFF スイッチ [17] が ON になっている (上の LED が点灯します) ことを確認してください。

- 11 フロントパネルの STUDIO OUT LEVEL ノブ [18] をゆっくり上げてください。DAW が再生している音声、スタジオモニターから聞こえ始めるはずです。STUDIO OUT LEVEL ノブ [18] で心地よいレベルに調整してください。STUDIO OUT LEVEL ノブをいっぱいまで上げなければモニターの音声聞こえない場合は、ノブを完全に下げて STUDIO 出力ジャック [52] の上にあるトリムノブ [53] の位置を調べてください。反時計回りになっている場合は、ノブを +4dB の位置にして再び STUDIO OUT LEVEL ノブを上げてください。今度はより早く音量が上がるはずです。
- 12 PHONES AMP 出力ジャック [50] にヘッドフォン分配アンプを接続している場合は、そこで各ヘッドフォン用の音量を上げると DAW が再生している音声聞こえるはず。十分な音量が出ない場合は、ヘッドフォンアンプのボリュームを完全に下げ、PHONES AMP 出力ジャックの上にあるレベルスイッチ [51] が -10dB の位置 (押し込んだ状態) になっていないか調べてください。-10dB の場合は +4dB にしてヘッドフォンアンプのボリュームを上げます。今度はより早く音量が大きくなるはずです。

- 13 Big Knob のフロントパネルにある PHONES ジャック

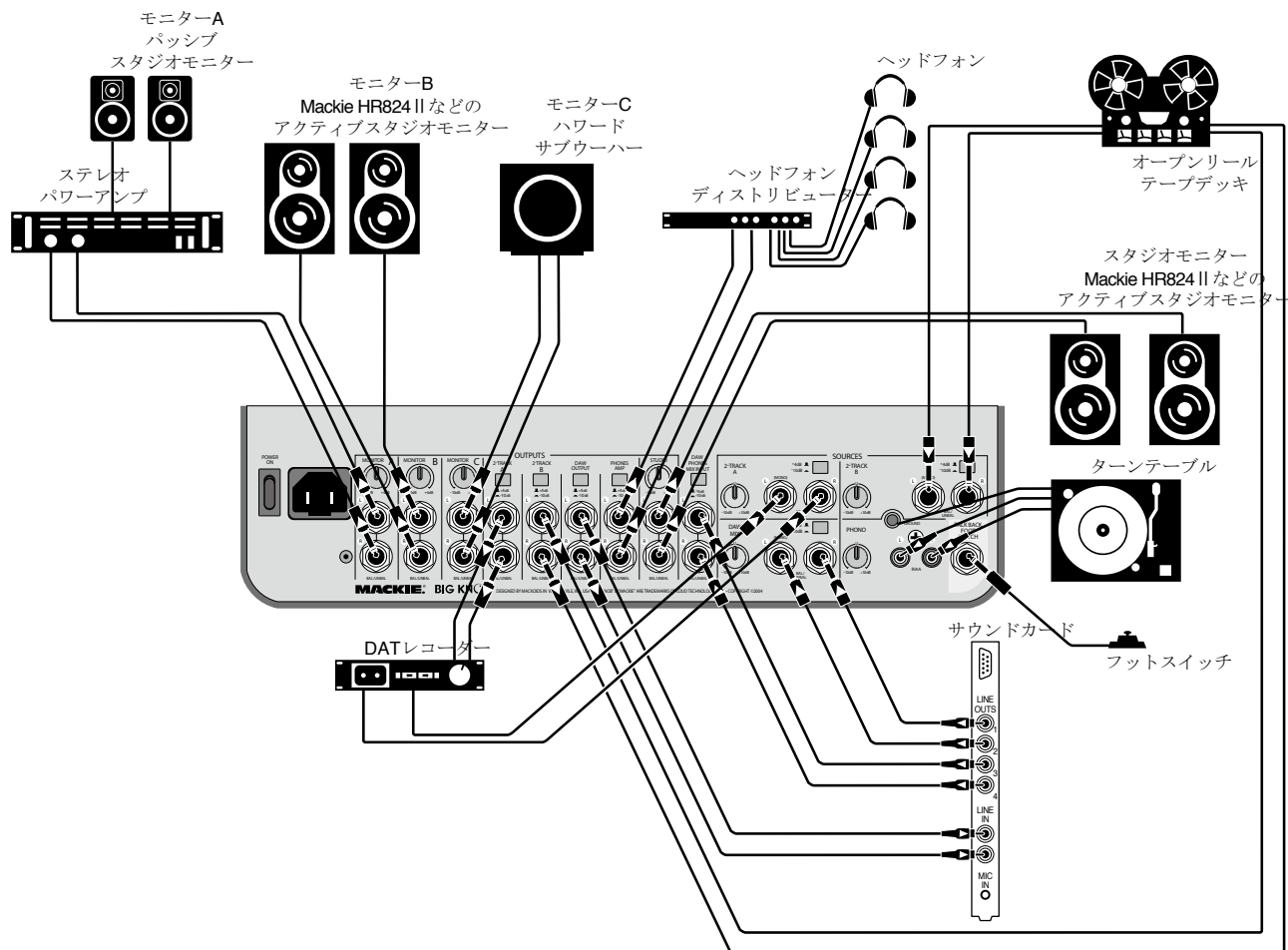
[14] にヘッドフォンを接続することができます。PHONES レベルノブ [15] をゆっくり上げて心地よいリスニングレベルにしてください。

- 14 2トラックプレイヤーからの信号を DAW に録音するとき、Big Knob に接続したプレイヤーを再生してください。

注意 2トラックの入力と出力がフィードバックループにならないよう、次ページの注意事項を読んでください。

- 15 フロントパネルの INPUT SOURCE SELECT セクションにある 2-TRACK A スイッチ [2] を押し、DAW MIX スイッチ [1] を OFF にします。INPUT メーター [5] が点灯し始めるまで 2-TRACK A トリムノブ [25] をゆっくり上げてください。メーターの「0」LED がいつも点灯するように調整します。「+8」LED が時折点滅する程度、「OL」LED はまったく点滅しないように調整してください。
- 16 録音のために DAW への入力を選んだことを確認します。録音を開始して 2-TRACK A 入力から Big Knob への信号を再生すると、DAW アプリケーションで録音されているはず。2トラックからの再生が十分な音量にならないときは、DAW OUTPUT ジャックの上にあるレベルスイッチ [49] が -10dB の位置 (押し込んだ状態) になっていないか調べてください。-10dB になっているときは +4dB にしてください。これで DAW への信号が十分な強度になるでしょう。

接続図



フロントパネルの機能

INPUT SOURCE SELECT セクション

ここにあるボタンは Big Knob に接続された 4 つの入力信号を ON または OFF にするものです。4 つを任意の組み合わせで同時に ON にすることができ、スイッチの上にある赤い LED が状態を表示します。

選択した入力ソースは MONITOR A/B/C ステレオ出力、2-TRACK A/B ステレオ出力、DAW ステレオ出力にルーティングされます。そして PHONES/STUDIO SOURCE スイッチが突き出した状態 (INPUT SOURCE) のときは PHONES AMP と STUDIO OUT のステレオ出力、さらにフロントパネルの PHONES 1 と 2 のジャックにルーティングされます。



注意！ 2トラックレコーダーを Big Knob の入力と出力の両方に接続しているとき、フィードバックループが生成される危険性があります。レコーダーが録音状態、録音スタンバイ、入力モニターなどの状態になっているとき、2-TRACK 出力からの信号がこのレコーダーに入り、2-TRACK 入力から戻されることで循環するループができ、かなり高いレベルのハウリングが発生します。2トラックレコーダーに録音するときは 2-TRACK INPUT SOURCE SELECT スイッチを押さないでください。

① DAW MIX スイッチ

DAW MIX 入力ジャック [29] に接続した信号を ON にします。

② 2-TRACK A スイッチ

2-TRACK A 入力ジャック [23] に接続した信号を ON にします。

③ 2-TRACK B スイッチ

2-TRACK B 入力ジャック [26] に接続した信号を ON にします。

④ PHONO スイッチ

PHONO 入力ジャック [32] に接続した信号を ON にします。

⑤ INPUT メーター

6 セグメントのメーターで、選択したステレオソースの信号レベルを表示します。メーターの 6 セグメントのスケールは、-24、-8、-4、0、+8、OL (Overload; 過負荷) で、「0」は +4dBu を表します。

⑥ VOLUME ノブ

この「ビッグノブ」は、スピーカー出力 (MONITOR A/B/C) に向かう選択した入力ソースの音量を調整するものです。VOLUME ノブはモニター出力 (A、B、C) にだけ作用します。ヘッドフォン出力、2トラック出力、DAW 出力など、他の出力に向かう信号には影響しません。

VOLUME ノブの調整範囲は OFF から +10dB ゲイン (最大) までです。

⑦ MONO スイッチ

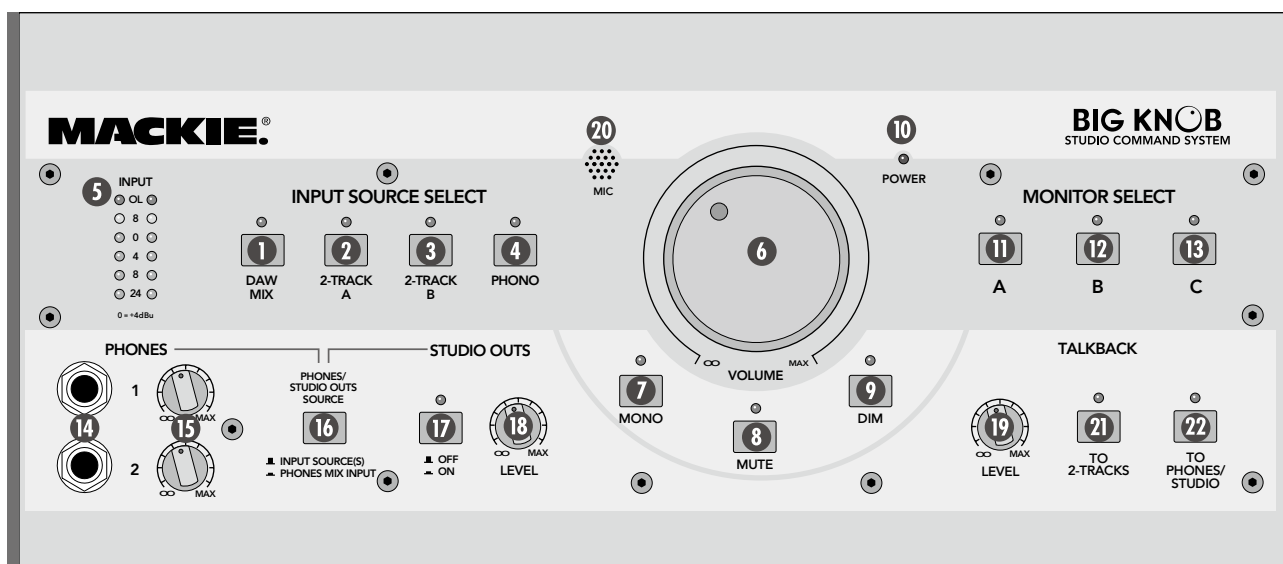
このスイッチを押すと MONITOR A/B/C 出力でのステレオ信号がモノラルになります。L と R の入力信号がサミングされ、L と R 両方の出力にモノラル信号が出てきます。これでステレオ信号をモノラルシステムで再生したときの位相に関する問題を確認することができます。

⑧ MUTE スイッチ

このスイッチを押すと MONITOR A/B/C 出力に向かう信号がミュートされます。

⑨ DIM スイッチ

このボタンを押すと、MONITOR A/B/C に向かう信号が 20dB 低くなります。これで設定したスピーカーレベルに影響を与えることなく、音量を下げて会話することができます。



NOTE MONO、MUTE、DIM スイッチは VOLUME ノブのように MONITOR A/B/C 出力にだけ作用します。これらのスイッチは他のさまざまな出力に向かうソースには影響しません。

10 POWER LED

この LED は Big Knob が電源を受けていて POWER スイッチが押されているとき点灯します。この LED は、どのスイッチも押されていないために各機能の LED が消えていても、Big Knob に電源が入っていることをお知らせします。

MONITOR SELECT セクション

11 MONITOR SELECT A スイッチ

このボタンを押すと選択した入力ソースが MONITOR A 出力ジャック [38] にルーティングされます。

12 MONITOR SELECT B スイッチ

このボタンを押すと選択した入力ソースが MONITOR B 出力ジャック [40] にルーティングされます。

13 MONITOR SELECT C スイッチ

このボタンを押すと選択した入力ソースが MONITOR C 出力ジャック [42] にルーティングされます。



Application Note: 同時にモニター出力を 1 つ、2 つ、または 3 つすべてを ON にすることができます。MONITOR B にフルレンジ、MONITOR C にサブウーファーを接続することもできます。MONITOR C スイッチを「サブウーファー ON/OFF」スイッチとして使い、サブウーファーの有無によるサウンドのちがいを比較することもできます。

14 PHONES 1、2 ジャック

1/4 インチ TRS コネクターで、PHONES/STUDIO SOURCE スイッチ [16] の位置によって DAW PHONES MIX

INPUT ジャック [35] または入力ソース [23, 26, 29, 32] いずれかの増幅されたステレオ信号が出力されます。

15 PHONES 1、2 レベルノブ

PHONES 1、2 ジャックでのステレオ信号の音量を制御するロータリーノブです。両方のヘッドフォン出力に同じ信号を送っていても、レベルはこのノブで個別に調整することができます。



NOTE ヘッドフォンを接続する前に、必ず PHONES レベルノブを完全に下げてください。この出力はかなり高いレベルでヘッドフォンをドライブするよう設計されているので、最初はレベルノブを完全に下げておき、次に快適なリスニングレベルまで「ゆっくり」レベルを上げてください。これからは必ず「ヘッドフォンを使い終わったら PHONES レベルノブを完全に下げる」習慣をつけましょう。こうすれば後でヘッドフォンを接続したとき、不注意で耳を飛ばすことはなくなるでしょう。



警告 長時間にわたって大音量でヘッドフォンを使用しないでください。難聴など聴覚に異常を来す原因になります。

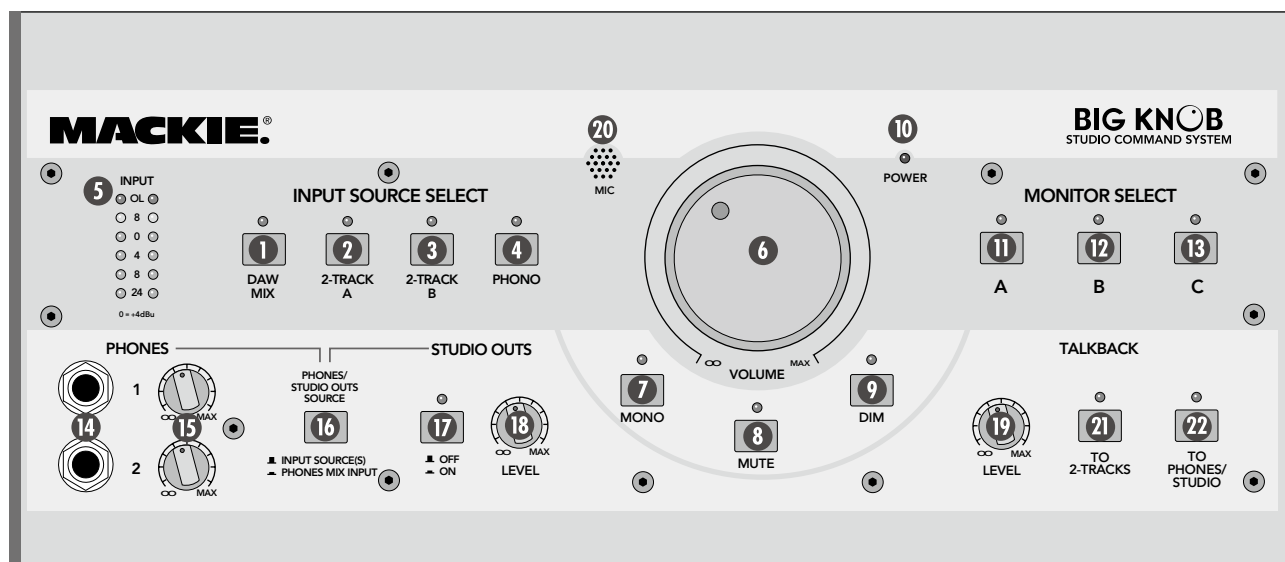
16 PHONES/STUDIO OUT SOURCE スイッチ

このスイッチは下記のステレオ信号に作用します。

- フロントパネルにある両方のヘッドフォン出力 (PHONES 1、2 ジャック [14])
- リアパネルの PHONES AMP 出力ジャック [50]
- リアパネルの STUDIO 出力ジャック [52]

INPUT SOURCE を選択している (このスイッチが突き出した状態の) とき、上記の出力へは INPUT SOURCE SELECT セクションのボタンで選んだ信号が送られます。MONITOR A/B/C 出力に向かう信号と同じです。この状態では、レコーディングエンジニアと演奏者は (モニター出力とスタジオ / ヘッドフォン出力の信号が同じなので) 同じミックスを聴くことができます。

このボタンを押し込んだとき (PHONES MIX INPUT)、



STUDIO 出力と PHONES ジャックにはリアパネルの DAW PHONES MIX INPUT ジャック [35] からの信号が送られます。この位置では、レコーディングエンジニアは DAW (DAW MIX 入力ジャック [29]) から来る「リアルな」ミックスを聴いていますが、演奏者は DAW (DAW PHONES MIX INPUT ジャック) から来る別の、特別なミックスを聴くことができます。

多くの DAW アプリケーションは、対応する I/O ハードウェアを通して少なくとも 4 つの出力を提供します。2 つの出力はメインミックスで、Big Knob の DAW MIX 入力ジャックに接続し、DAW MIX スイッチ [1] で選択します。DAW アプリケーションでは、もう 1 組の出力にルーティングされるステレオ AUX センドで演奏者向けのヘッドフォンミックスを作ることができますが、こちらは Big Knob の DAW PHONES MIX INPUT ジャック [35] に接続し、PHONES/STUDIO SOURCE スイッチ [16] でスタジオ出力やヘッドフォン出力にルーティングします。

17 STUDIO OUT ON/OFF スイッチ

このスイッチはリアパネルの STUDIO 出力ジャック [52] へのシグナルパスを ON/OFF するものです。このスイッチを押し込むと (ON) スイッチの上の赤い LED が点灯して、信号が STUDIO 出力ジャックに向かっていることを表示します。

18 STUDIO OUT LEVEL ノブ

リアパネルにある STUDIO 出力ジャック [52] のレベルを調整するノブです。

19 TALKBACK LEVEL ノブ

このノブは内蔵無指向性トークバックマイク用プリアンプのレベルを調整するものです。この信号は DAW OUTPUT ジャック [48]、2-TRACK A 出力ジャック [44] や 2-TRACK B 出力ジャック [46] (TO 2-TRACKS スイッチ [21] が押されているとき) に、または PHONES/STUDIO パス (TO PHONES/STUDIO スイッチ [22] が押されているとき) に送られます。このノブのゲイン調整範囲は OFF (∞) から +10dB です。

20 トークバックマイク

無指向性のマイクで Big Knob のフロントパネル右側、VOLUME ノブ [6] のすぐ左にあります。このマイクは 2 つのトークバック・アサイン・スイッチ [21、22] の一方が押されているとき動作します。

21 TO 2-TRACKS スイッチ

このモメンタリースイッチを押すと上にある赤い LED が点灯し、内蔵トークバックマイクが動作してその信号が下記の行き先に送られます。

- 2-TRACK A 出力ジャック [44]
- 2-TRACK B 出力ジャック [46]
- DAW OUTPUT ジャック [48]

22 TO PHONES/STUDIO スイッチ

このモメンタリースイッチを押すと上にある赤い LED が点灯し、内蔵トークバックマイクが動作してその信号が下記の行き先に送られます。

- フロントパネルの PHONES 1、2 ジャック [14]
- リアパネルの PHONES AMP 出力ジャック [50]
- リアパネルの STUDIO 出力ジャック [52]

このスイッチはトークバック信号を、PHONES/STUDIO OUT SOURCE スイッチ [16] の設定にかかわらず、上記すべての出力に送ります。つまりヘッドフォン出力とスタジオ出力はすべて、入力ソースまたは DAW PHONES MIX INPUT ジャック [35] のどちらからプログラムを受けていても、トークバック信号を聴くことになります。

他のボタンとは異なり、TO PHONES/STUDIO スイッチと TO 2-TRACKS スイッチはモメンタリーです。つまりこのスイッチを押している間だけトークバックマイクが動作します。

NOTE TO PHONES/STUDIO スイッチと TO 2-TRACKS スイッチを同時に押すと、トークバックマイクは 2 トラック出力とヘッドフォン出力、スタジオ出力に送られます。

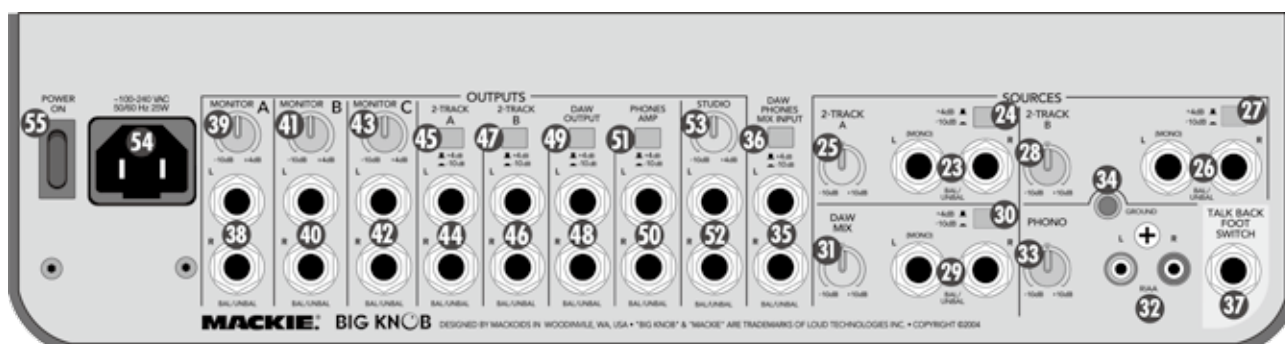
リアパネルの TALKBACK FOOT SWITCH ジャック [37] に外付けのフットスイッチを接続してアクティブにすると、両方のスイッチを同時に押したときと同じ効果があります。

リアパネル：ソース

以下のセクションでは Big Knob に送るさまざまなソースのコネクターについて説明します。

23 2-TRACK A 入力ジャック

ステレオ 1/4 インチのバランス / アンバランス入力で、1 台目の外部 2 トラックレコーダーの出力を接続します。モノラル



信号を接続するときは L (MONO) ジャックにだけ接続すれば、L と R 両方の入力に自動的にルーティングされます。

24 2-TRACK A レベルスイッチ

この 2 ポジションスイッチは、2-TRACK A 入力を +4dB (バランス入力) または -10dB (アンバランス入力) のどちらかに設定するものです。+4dB は +4dBu 規格で動作する業務機に、-10dB は -10dBV 規格で動作する民生機に使用します。

25 2-TRACK A トリムノブ

このノブは 2-TRACK A 入力ジャックに入ってくる信号の入力感度を ±10dB (センタークリックでユニティ) で調整します。このため入ってくるさまざまな、出力レベルコントロールがない 2 トラックソース同士を高精度でレベルマッチングすることができます。

26 2-TRACK B 入力ジャック

ステレオ 1/4 インチのバランス / アンバランス入力で、2 台目の外部 2 トラックレコーダーの出力を接続します。モノラル信号を接続するときは L (MONO) ジャックにだけ接続すれば、L と R 両方の入力に自動的にルーティングされます。

27 2-TRACK B レベルスイッチ

この 2 ポジションスイッチは、2-TRACK B 入力を +4dB (バランス入力) または -10dB (アンバランス入力) のどちらかに設定するものです。+4dB は +4dBu 規格で動作する業務機に、-10dB は -10dBV 規格で動作する民生機に使用します。

28 2-TRACK B トリムノブ

このノブは 2-TRACK B 入力ジャックに入ってくる信号の入力感度を ±10dB (センタークリックでユニティ) で調整します。このため入ってくるさまざまな、出力レベルコントロールがない 2 トラックソース同士を高精度でレベルマッチングすることができます。

29 DAW MIX 入力ジャック

ステレオ 1/4 インチのバランス / アンバランス入力で DAW のマスターミックス出力、通常は DAW 出力 1-2 を接続するところです。モノラル信号を接続するときは L (MONO) ジャックにだけ接続すれば、L と R 両方の入力に自動的にルーティングされます。

30 DAW MIX レベルスイッチ

この 2 ポジションスイッチは、DAW MIX 入力を +4dB (バランス入力) または -10dB (アンバランス入力) のどちらかに設定するものです。+4dB は +4dBu 規格で動作する業務機に、-10dB は -10dBV 規格で動作する民生機に使用します。

31 DAW MIX トリムノブ

このノブは DAW MIX 入力ジャックに入ってくる信号の入力感度を ±10dB (センタークリックでユニティ) で調整します。このため他の 2 トラックソースと、高精度のレベルマッチングが可能です。

32 PHONO 入力ジャック

ステレオ RCA のアンバランス入力で、ムービングマグネット (MM 式) カートリッジのターンテーブルを接続するものです。この入力には高精度の RIAA アンプが内蔵されていて、PHONO レベル信号を適切なラインレベル信号にするために必要なイコライゼーションとゲインを提供します。

このためビニールレコードを再生して 2 トラックレコーダーにダビングしたり、DAW の入力に PHONO 信号を送って保存したり CD に焼くことができます。

NOTE この製品には RCA ショートプラグが 2 つ付いています。PHONO 入力を使わないときは、このプラグを差し込んでください。これで入力がターミネートされ、誤って PHONO スイッチ [4] を押したときにノイズフロアを下げるができます。

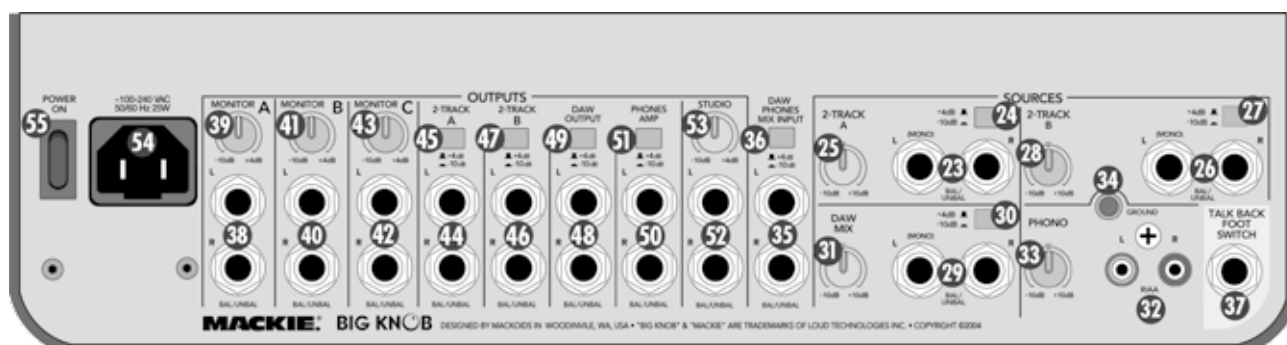
33 PHONO トリムノブ

このトリムは入ってくる PHONO 信号の入力感度を ±10dB で調整するものです。このため PHONO 入力に入ってくるレベルを高い精度で微調整することができるので、他の 2 トラックとの間で信号レベルをマッチングすることができます。

製品によって -10dB または +4dB の可能性があるテープデッキやサウンドカードなどとは異なり、フォノグラフは常に民生信号レベルなので、PHONO 入力には +4/-10 レベルスイッチはありません。

34 GROUND ラグ (GND)

小さなグラウンドラグで、接続したターンテーブルのアース線を接続するものです。これで PHONO ソースの音声信号でグラウンドループやハムを防ぐことができます。



35 DAW PHONES MIX INPUT ジャック

ステレオ 1/4 インチのバランス / アンバランス入力で、カスタムのヘッドフォンミックスとして DAW から 2 つめのステレオミックスを接続することができます。

たとえば DAW の 1-2 出力から Big Knob の DAW MIX 入力ジャック [29] にメインミックスを送り、DAW の 3-4 出力からこのジャックにヘッドフォン用カスタムミックスを送ることができます。この状態で PHONES/STUDIO OUT SOURCE スイッチ [16] を使えば、ヘッドフォン [14, 50] とスタジオ出力 [52] に送るミックスを選択することができます。

36 DAW PHONES MIX INPUT レベルスイッチ

この 2 ポジションスイッチで DAW PHONES MIX INPUT ジャック [35] の入力レベルを、+4dB (バランス入力) または -10dB (アンバランス入力) のどちらかに設定します。+4dBu 規格で動作する業務機またはサウンドカードの場合は +4dB を、-10dBV 規格で動作する民生機やサウンドカードの場合は -10dB を選択してください。

37 TALKBACK FOOT SWITCH ジャック

1/4 インチ TS コネクターで、標準的なモメンタリーのフットスイッチ (NO; 通常オープン) またはモメンタリーのハンドスイッチを接続します。これで離れた場所にいるプロデューサーがトークバック回路を動作させ、レコーディングしている演奏者と話をすることができます。

外部スイッチを接続して「通常オープン」から「モメンタリークローズ」にすると、フロントパネルの TO 2-TRACKS スイッチ [21] と TO PHONES/STUDIO スイッチ [22] の両方がアクティブになり、対応する LED が点灯して、まるで両方のスイッチを押したかのようにトークバック回路が動作します。フットスイッチ接続の配線図は「付録 B」を参照してください。

出力

以下の出力は「コントロールルームバス」から送られます。このバスは INPUT SOURCE SELECT スイッチで選択されている入力から、大きな VOLUME ノブ [6] を経由して送られるシグナルバスです。

38 MONITOR A 出力ジャック

ステレオ 1/4 インチのバランス / アンバランス出力で、1 セット目の外部スピーカーに接続するものです。パワードスピーカーまたはパッシブスピーカーを駆動するパワーアンプを接続してください。

39 MONITOR A 出力トリムノブ

このトリムノブは MONITOR A 出力信号の感度を調整するものです。+4dBu 規格で動作する業務機のバランス入力を接続するときは +4dB、-10dBV 規格で動作する民生機のアンバランス入力を接続するときは -10dB を選択してください。MONITOR A、B、C 各出力の間で正確にレベルを合わせる必要がある場合は、このトリムは +4dB と -10dB の間の位置に設定して調整することができます。

40 MONITOR B 出力ジャック

上記の MONITOR A パスと同様に動作します。

41 MONITOR B 出力トリムノブ

上記の MONITOR A パスと同様に動作します。

42 MONITOR C 出力ジャック

上記の MONITOR A パスと同様に動作します。

43 MONITOR C 出力トリムノブ

上記の MONITOR A パスと同様に動作します。

NOTE MONITOR A、B、C 全体のレベルは、フロントパネルの VOLUME ノブ [6] で制御します。

44 2-TRACK A 出力ジャック

ステレオ 1/4 インチのバランス / アンバランス出力で、1 台目の外付け 2トラックレコーダーを接続します。DAT レコーダー、カセットデッキ、オープンリールデッキなどを接続してください。この出力の信号は、フロントパネルの INPUT SOURCE SELECT スイッチで選択したものです。

45 2-TRACK A 出力レベルスイッチ

この 2 ポジションスイッチは、2-TRACK A 出力のレベルを +4dB (突き出した状態) または -10dB (押し込んだ状態) のいずれかに設定するものです。+4dBu 規格で動作する業務機のバランス入力を接続するときは +4dB、-10dBV 規格で動作する民生機のアンバランス入力を接続するときは -10dB を選択してください。

46 2-TRACK B 出力ジャック

上記の 2-TRACK A と同様に動作します。

47 2-TRACK B 出力レベルスイッチ

上記の 2-TRACK A と同様に動作します。

48 DAW OUTPUT ジャック

ステレオ 1/4 インチバランス / アンバランス出力で、DAW オーディオインターフェースの入力ペアに接続します。

49 DAW OUTPUT レベルスイッチ

2 ポジションのスイッチで、DAW 出力を +4dB (突き出した状態) または -10dB (押し込んだ状態) のいずれかに設定するものです。+4dBu 規格で動作する業務機やサウンドカードのバランス入力を接続するときは +4dB、-10dBV 規格で動作する民生機やサウンドカードのアンバランス入力を接続するときは -10dB を選択してください。

個別に -10dB または +4dB と同様、バランスまたはアンバランスでの動作を選択できるので、お手持ちの録音機器で利用可能な業務機または民生機の 2 トラックレコーダーと DAW

サウンドカードを、どんな組み合わせでも接続することができます。



NOTE 上記 3 つの出力 (2-TRACK A、2-TRACK B、DAW) は、INPUT SOURCE

SELECT スイッチで選択した信号を生成します。接続する 2 トラックレコーダーや DAW の入力には一般にそれぞれ連続可変の入力レベルコントロールが付いているので、この出力には (+4dB/-10dB スイッチの他に) 連続可変のレベルコントロールはありません。

ヘッドフォンアンプとスタジオ出力

ヘッドフォンアンプとスタジオ出力には、選択した INPUT SOURCE SELECT スイッチで送られる信号 (つまりエンジニアが聴いているミックスと同じもの)、または DAW PHONES MIX INPUT ジャックに接続した信号 (つまり演奏者向けのモニター用別ミックス) のどちらかを選ぶことができます。

このためエンジニアがコントロールルームで自身のマスターミックスを聴いているとき、同時に演奏者がスタジオモニター出力 (STUDIO 出力ジャック) 同様、カスタマイズされたヘッドフォンミックスをフロントパネルの PHONES 1、2 ジャックやリアパネルの PHONES AMP 出力ジャックで聴くことができます。(そのときのソースとヘッドフォンミックス入力) どちらのステレオ信号を選択するかは、フロントパネルの PHONES/STUDIO OUT SOURCE スイッチ [16] で定義します。

50 PHONES AMP 出力ジャック

ステレオ 1/4 インチのバランス / アンバランスコネクタで、外部のマルチヘッドフォンアンプに接続します。これで演奏者用のヘッドフォンを複数接続することができます。この出力のレベルは、フロントパネルの大きな VOLUME ノブ [6] や PHONES 1、2 レベルノブ [15] の影響を受けません。ヘッドフォンアンプに個別に付いているボリュームコントロールをお使いください。

51 PHONES AMP 出力レベルスイッチ

この 2 ポジションのスイッチは、PHONES AMP 出力ジャックを +4dB (突き出した状態) または -10dB (押し込んだ状態) のいずれかに設定するものです。+4dBu 規格で動作する業務機のバランス入力を接続するときは +4dB、-10dBV 規格で動作する民生機のアンバランス入力を接続するときは -10dB を選択してください。

52 STUDIO 出力ジャック

ステレオ 1/4 インチのバランス / アンバランスコネクタで、スタジオの演奏スペースにあるアクティブモニター (またはパッシブモニターを駆動するアンプ) を接続します。これで演奏者はヘッドフォンがなくてもプレイバックを聴くことができ、コントロールルームのエンジニアはトークバックシステムで演奏者と会話をすることができます。この出力のレベルは、フロントパネルの STUDIO OUT LEVEL ノブ [18] で調整してください。

53 STUDIO 出力トリムノブ

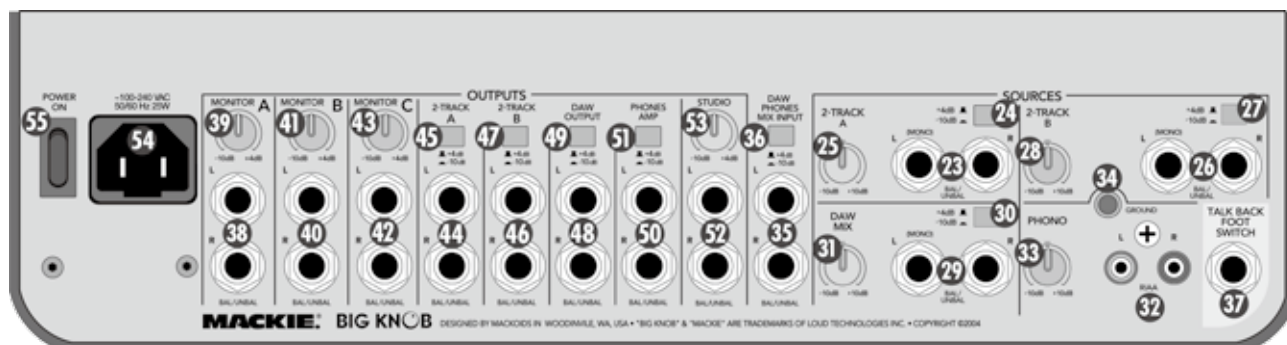
このトリムノブは STUDIO 出力信号の感度を調整するものです。+4dBu 規格で動作する業務機のバランス入力を接続するときは +4dB、-10dBV 規格で動作する民生機のアンバランス入力を接続するときは -10dB を選択してください。このトリムは一般にどちらかの側に設定しておきますが、必要に応じて +4 と -10 の間に設定することもできます。

54 AC 電源インレット

付属の着脱式電源コードを接続してください。電源コードが破損した、あるいは紛失した場合は、この製品をお求めの販売代理店にご相談ください。

55 POWER スイッチ

ロッカー式のスイッチで、Big Knob の電源を ON または OFF にします。



付録 A サービスに関する情報

保証についてはこのマニュアルの冒頭でご確認ください。

お手元の **Mackie** 製品に問題があると思われるときは、下記の「トラブルシューティング」のヒントにそって問題を確認することです。**Mackie** のウェブサイトにあるサポートセクションでも、FAQ や文書、ユーザーフォーラムで有用な情報を紹介しています。**Mackie** 製品を送り返すことなく問題の解答が見つかるかもしれません。

電源が入らない

- **Mackie** お気に入りの質問。電源を接続してありますか。
- 電源コードが **AC 電源ソケット [54]**、そして **AC コンセント** などの電源にきちんと差し込まれていることを確認してください。
- 電源コンセントから電源が供給されていますか。(テスターやランプで確認してください。)
- **POWER スイッチ [55]** は **ON** になっていますか。リアパネルの **POWER スイッチ** が **ON (上)** になっていることを確認してください。
- フロントパネルの **POWER LED [10]** は点灯していますか。点灯していない場合は、**AC 電源** が生きていることを確認してください。点灯している場合は下記の「音が出ない」を参照してください。
- 建物全体で電気が消えていませんか。その場合は電力会社に連絡してください。
- 電源が正常でも **POWER LED** が消えている場合は、サービスが必要かもしれません。この製品の内部にはお客様が調整される部分はありません。この製品をお求めの販売代理店に修理をご依頼ください。

音が出ない

- フロントパネルの **POWER LED [10]** は点灯していますか。消えている場合は前項の「電源が入らない」を参照してください。
- **INPUT SOURCE SELECT** スイッチを押しましたか。**INPUT SOURCE SELECT** スイッチの上にある **LED** が点灯していることを確認してください。
- 信号ソースの音量は上がっていますか。選択した入力ソースからの信号レベルが、**Big Knob** フロントパネルの **INPUT** メーターで表示されるだけ十分に高いことを確認してください。
- 選択した入力のトリムノブとレベルスイッチが正しく設定されていることを確認してください。
- ヘッドフォン出力 [14, 50] やスタジオ出力 [52] で音が出ないときは、
 - ★フロントパネルの **PHONES/STUDIO OUT SOURCE** スイッチ [16] が突き出した (**INPUT SOURCES** を選択した) 状態になっていることを確認してください。

★ **PHONES 1、2 レベルノブ [15]** または **STUDIO OUT LEVEL ノブ [18]** は上がっていますか。

★ **STUDIO OUT ON/OFF スイッチ [17]** が **ON** になっていることを確認してください。

- モニター出力 [38, 40, 42] で音が出ないときは、
 - ★正しい **MONITOR SELECT** スイッチが押されていて、その出力に対応するトリムノブが正しく設定されていることを確認してください。
 - ★モニター出力とアクティブスピーカーやアンプを接続しているケーブルが正常であること、アンプとスピーカーが正常に機能していることを確認してください。

音が良くない

- 入力コネクタはジャックにきちんと接続されていますか。
- 音が大きくて歪んでいますか。選択した入力のトリムノブやレベルスイッチが正しく設定されていることを確認してください。できれば入力ソースの信号レベルを下げてください。
- 可能であれば、入力ソース機器にヘッドフォンを接続して信号を聴いてください。そこで音が良くなければ **Big Knob** は問題の原因ではありません。
- モニター出力のトリムノブが正しく設定されていて、接続しているアクティブスピーカーやアンプの入力が過負荷になっていないことを確認してください。

ノイズ/ハム

- **Big Knob** の **PHONO** 入力ジャック [32] にターンテーブルを接続している場合、ターンテーブルのアース線が **Big Knob** の **GROUND** ラグ [34] に正しく接続されていることを確認してください。
- ターンテーブルを **PHONO** 入力ジャックに接続していない場合、**PHONO** スイッチ [4] が押されていないか確認してください。また使用していない **PHONO** 入力に **RCA** ショートプラグが差し込んであることを確認してください。
- 入力ソースと **Big Knob** を接続する信号ケーブルを確認してください。ケーブルを 1 本ずつ外してみます。ノイズが止まれば、どの入力ソースが問題の原因なのかわかります。
- すべての音響機器を同じ **AC** 電源回路から取ると、コモングラウンドを共用するため、問題解決の役に立つことがあります。

ご不明な点は ...

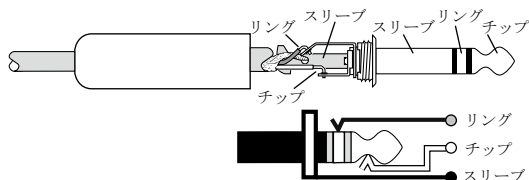
- www.mackie.com/jp にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- support_mackie@otk.co.jp までメールをお寄せください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。
日本語 **04-2944-3811** (月～金曜、9am ～ 6pm)
英語 **1-800-898-3211** (月～金曜、営業時間 PST)

付録 B 接続

1/4 インチ TRS フォーンプラグとジャック

「TRS」はチップ-リング-スリーブの略で、ステレオ 1/4 インチまたはバランスフォーンのジャックやプラグに 3 つの接点があるものです。TRS ジャックとプラグはバランス信号やヘッドフォンに使われます。

バランスモノラルの場合



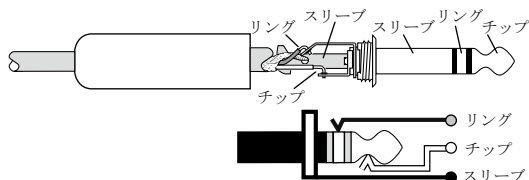
1/4 インチ TRS バランスモノラルの配線

スリーブ = シールド

チップ = ホット (+)

リング = コールド (-)

ステレオヘッドフォン



1/4 インチ TRS ステレオアンバランスの配線

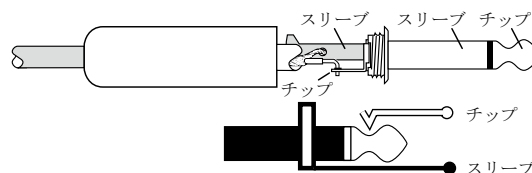
スリーブ = シールド

チップ = L

リング = R

1/4 インチ TS フォーンプラグとジャック

「TS」はチップ-スリーブの略で、モノラルの 1/4 インチフォーンジャックとプラグに 2 つの接点があるものです。このコネクターはアンバランス信号に使います。



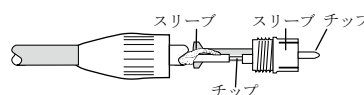
1/4 インチ TS アンバランスの配線

スリーブ = シールド

チップ = ホット (+)

RCA プラグとジャック

RCA タイプのプラグ (PHONO プラグとしても知られています) とジャックはよくホームオーディオや映像機器に使われます。アンバランスで電気的には 1/4 インチ TS フォーンプラグと同等です。



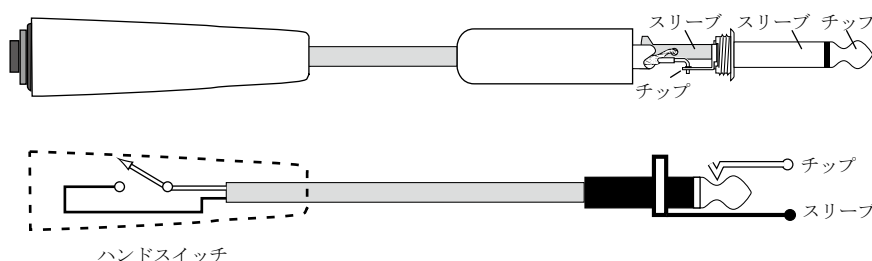
RCA アンバランスの配線

スリーブ = シールド

チップ = ホット (+)

フットスイッチプラグとジャック

トークバック用フットスイッチジャックは 1/4 インチ TS プラグを受けます。チップとスリーブがショートするとトークバック回路が動作します。これは TO 2-TRACKS と TO PHONES/STUDIO スイッチを両方押した場合に相当します。



付録 C 技術情報

仕様

周波数特性

ラインレベル入力および出力

+0, -1dB 10Hz ~ 50kHz

+0, -3dB 5Hz ~ 100kHz

RIAA イコライゼーション偏差 (PHONO 入力)

± 0.5dB 20Hz ~ 20kHz

歪率 (THD、IMD)

ラインレベル入力からラインレベル出力 (ユニティゲイン)

0.015% 未満 20Hz ~ 20kHz @+4dBu

RIAA 入力、公称ゲイン

0.015% 未満 20Hz ~ 20kHz @+4dBu

ノイズフロア

(20kHz バンドワイズ、+4dB レベル設定、150 Ω ソース)

ユニティゲイン、DAW/2-TRACK A/2-TRACK B にアサイン

最小 -86dBu (全出力)

MONITOR A/MONITOR B/MONITOR C/STUDIO/DAW/2-TRACK A/2-TRACK B 出力

通常 -90dBu

PHONO 入力 (公称 41.8dB ゲイン @ 1kHz, 入力ショート時)

最大 -71dBu (全出力)

入力ノイズ相当 (EIN)

最大 0.89 μV/-119dBu

ダイナミックレンジ

ライン入力

最小 112dB

PHONO 入力

最小 93dB

CMRR

(20Hz ~ 20kHz @ +4dB レベル設定)

最小 34dB

通常 40dB

クロストーク

隣接入力間

90dB @ 1kHz

L → R / R → L

70dB @ 1kHz

ミュート / レベル OFF

90dB @ 1kHz

トリムノブ調製範囲

入力トリムノブ (センタークリック)

± 10dB

出力トリムノブ

-14dB ~ 0dB

DIM スイッチ

0dB / -20B

定格入力電圧

ライン入力 (+4dB レベル設定時)

+4dBu / +28dBu (公称 / 最大)

ライン入力 (-10dB レベル設定時)

-10dBu (-12.21dBV) / +14dBu (公称 / 最大)

RIAA 入力 (@1kHz, 公称ゲイン)

5mV / 79mV (公称 / 最大)

定格出力電圧

全ラインレベル出力 (+4dB レベル設定時)

+4dBu / +22dBu (公称 / 最大)

全ラインレベル出力 (-10dB レベル設定時)

-10dBu (-12.21dBV) / +8dBu (公称 / 最大)

最大電圧ゲイン

DAW、2-TRACK A、2-TRACK B 入力→

MONITOR A、B、C 出力

34dB

DAW、2-TRACK A、2-TRACK B、PHONES AMP 出力

24dB

STUDIO 出力

34dB

PHONES 1、2 出力

34dB (出力負荷 100k Ω 時)

DAW PHONES MIX INPUT →

PHONES AMP 出力

14dB

STUDIO 出力

24dB

PHONES 1、2 出力

24dB (出力負荷 100k Ω 時)

PHONO 入力 @ 1kHz →

MONITOR A、B、C 出力

67.8dB

DAW、2-TRACK A、2-TRACK B、PHONES AMP 出力

57.8dB

STUDIO 出力

67.8dB

PHONES 1、2 出力

67.8dB (出力負荷 100k Ω 時)

入カインピーダンス

ライン入力

24k Ω バランス

12k Ω アンバランス

PHONO 入力

47k Ω || 220pF

出カインピーダンス

ライン出力

300 Ω バランス

150 Ω アンバランス

ヘッドフォン出力

150 Ω

入力 VU メーター

6 セグメント (OL、+8dB、-4dB、-8dB、-24dB)

トークバックセクション

自動ゲイン調整 (AGC) 範囲

± 15 dB

公称出力レベル

+4dBu (+4dB 出力レベル設定)

出力レベル範囲

OFF $\sim$ +10dB

公称マイク入力感度

80dB SPL

必要電源

日本向け仕様

100VAC、50/60Hz

消費電力

25W

寸法、重量

高さ 81mm (89mm/ ノブ含む)

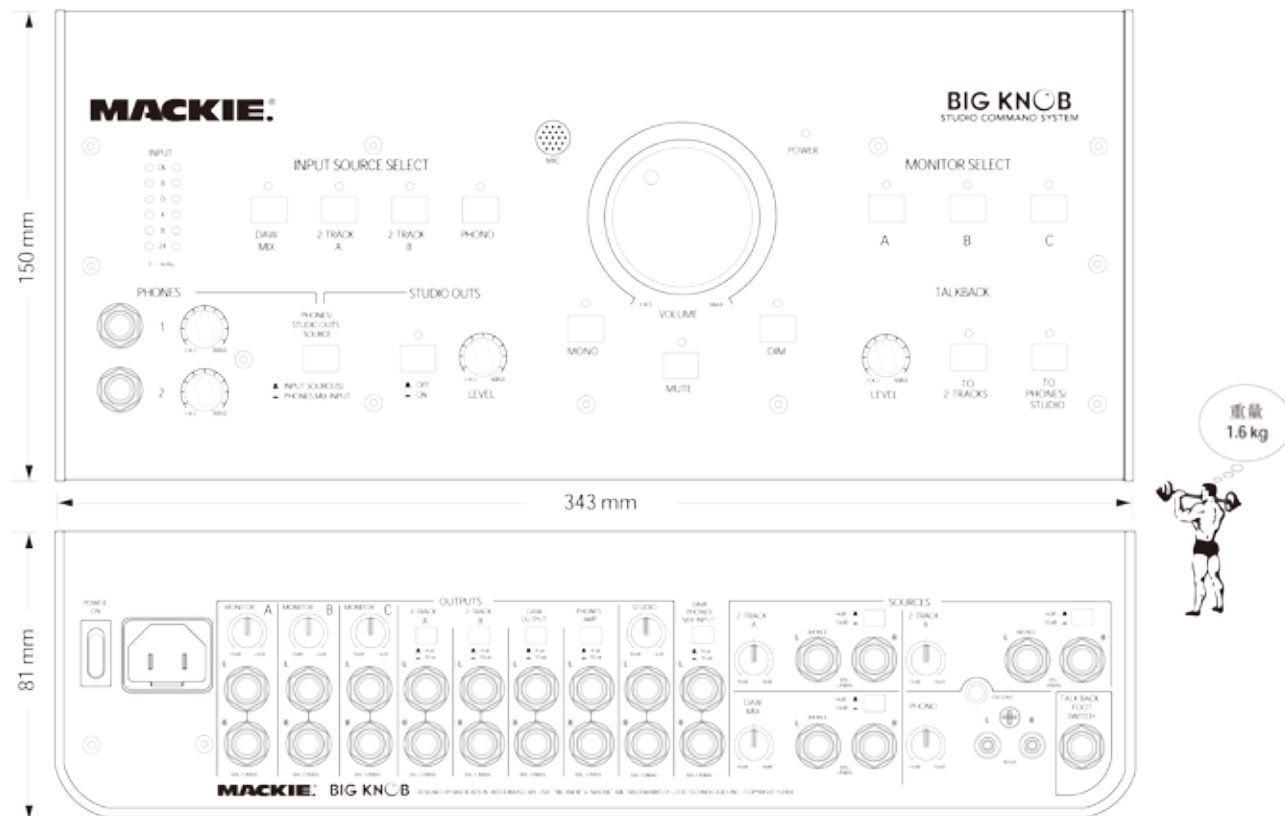
幅 343mm

奥行き 150mm

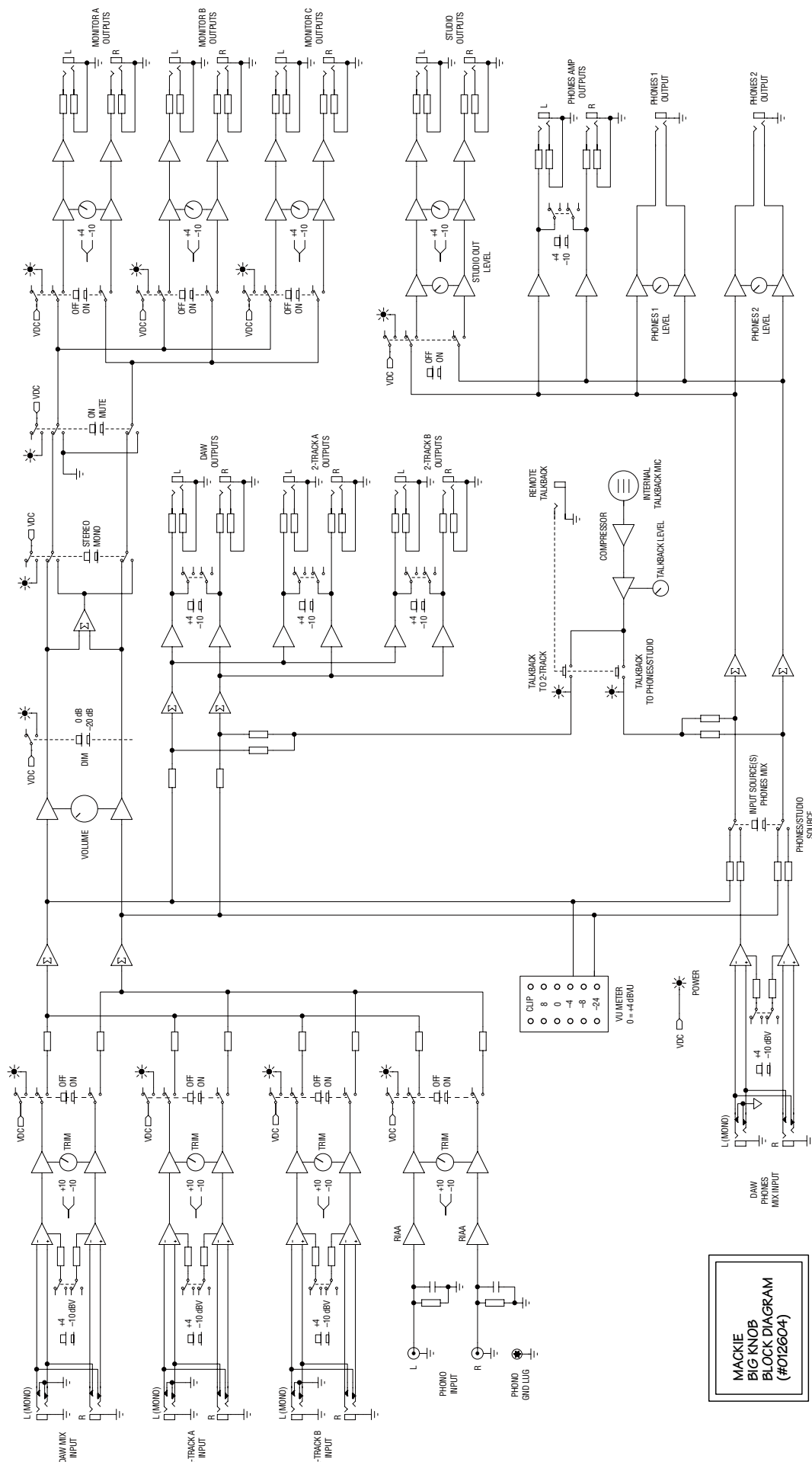
重量 1.6kg

LOUD Technologies Inc. は、新しく改良された材料や部品、製造過程を取り入れることにより、常に製品をより良いものとする努力を続けています。そのためこれらの仕様は予告なしに変更されることがあります。

Mackie、ランニングマンのフィギュアは LOUD Technologies Inc. の商標です。記されたその他すべてのブランド名称は、それぞれの権利保持者の商標または登録商標です。



ブロックダイアグラム



MACKIE®